

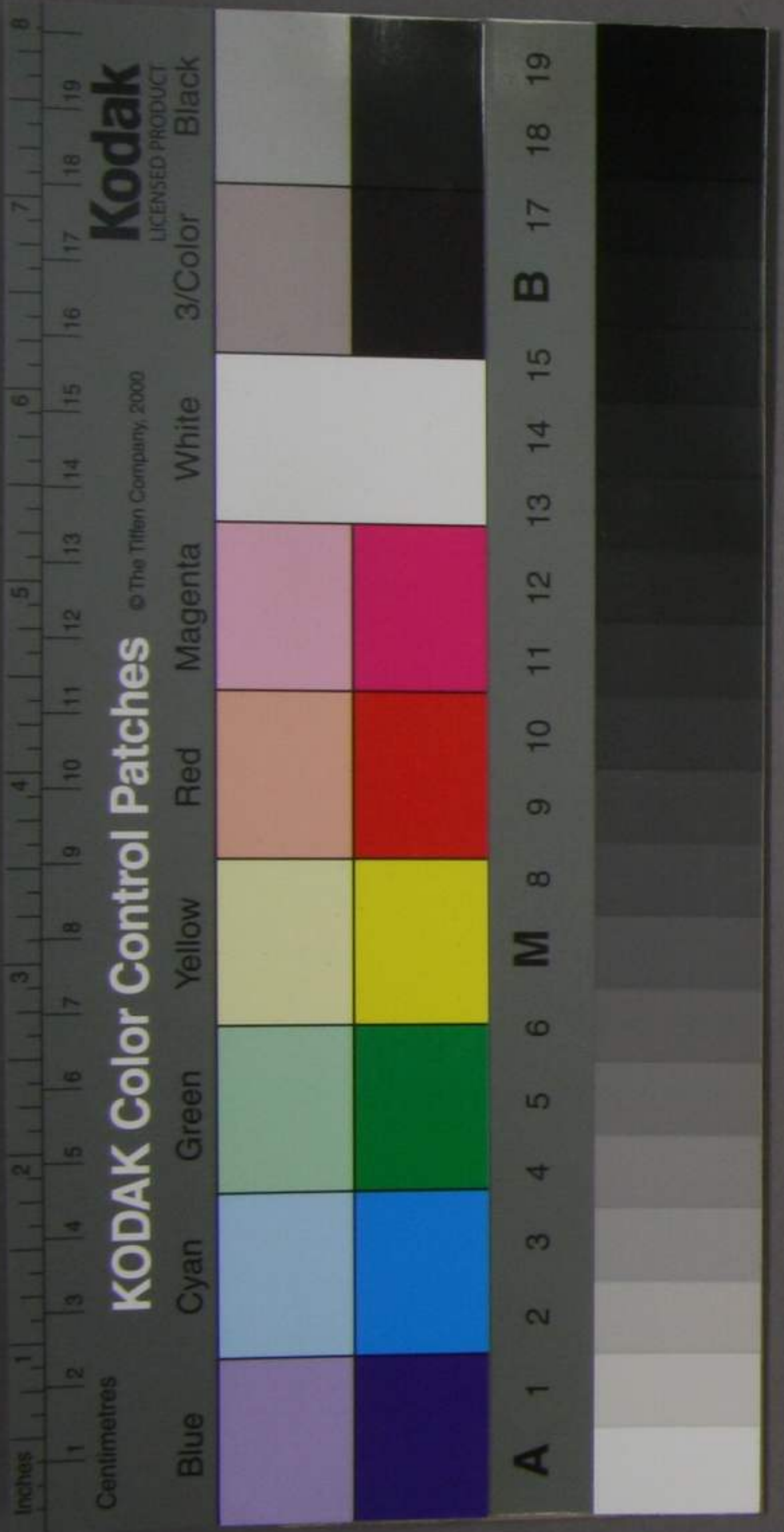
114  
A1759



銀貨改鑄ノ便益  
貿易銀ノ事

我カ貿易壹圓銀ハ其初メ墨是哥「ドル」ト同シク九百  
位ノ品位ニシテ其量數モ亦齊シク四百拾六匹タリ其之  
ヲ鑄造發行スルマ内外貿易ノ主貨標準タル墨銀ト相顔  
頑セシメ終ニ墨銀ヲシテ我貿易銀ノ下風ニ在ラシメン  
トヲ企望セシモノ、如シ既ニシテ而シテ米合衆國ニ於  
テ貿易銀ヲ發行シ其品位ハ九百位ナリト雖モ其量數ニ  
至テハ四百貳拾匹ニシテ夥シク之ヲ東洋ニ發行シ以テ  
亞細亞地方貿易主貨ノ權利ヲ占有セントスルノ勢アル  
ニ至ル是ニ於テ乎造幣局御僱外國人某氏ノ建議ニ基キ  
我カ貿易銀ノ秤量ヲ増加シ米銀ト同シク四百貳拾匹ト  
ナシ之ヲ鑄造セシム然リ而シテ我カ各港ニ於テ流通ス

石橋  
大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈





ル所ノ形況ヲ見ルニ當初四百拾六匁ナリシ時ト同一ニシテ未タ其信憑ヲ増占スルノ實跡ヲ見サルノミナラス却テ墨銀ノ下位ニ居ルヲ見ル即チ墨銀百弗ト貿易銀百圓トニ於テ其秤量ヲ計較セハ貿易銀ノ墨銀ヨリ重量ヲ有スル一四百匁ナルハ判然タリ然ルニ常ニ百圓ヲ以テ百弗ニ流通スルヲ得ス却テ九拾七<sup>九</sup>弗ノ通價タル時<sup>九</sup>之レ有リ是レ實ニ恠ムハキモノ、如シ何トナレハ秤量上ヨリ之ヲ論スレハ貿易銀九拾七八圓ヲ以テ墨銀百弗ニ流通スハキノ理ナルニ却テ墨銀ノ下位ニ在ルヲ以テナリ蓋シ旧來慣用スル所ノ<sup>六</sup>ドル<sup>六</sup>ノ聲價亦甚シト云フハシ依テ今一步ヲ進メ墨銀ヲ以テ貿易銀ヲ買集シ他國ニ於テ之ヲ改鑄スルモ尚ホ得益ナカラザルニ似タリ乃チ我カ貿易銀ハ通價ノ利用ニ乏シク徒ニ銀地金ノ

地位ニ在リト云フモ証ヒサルハシ  
明治五六年ノ比ニ當テ我カ壹圓銀ノ<sup>六</sup>百<sup>六</sup>海外支那地方ニ流通スルノ實況ヲ聞知スルニ蓋シ該地ハ古物ヲ貴重スルノ風習ナルニ由リ壹圓銀ノ新鑄ヲ嫌フノ情勢アリ然レ其品位秤量ハ墨銀ト同等ニシテ文字ハ自國文ナルヲ以テ又之ヲ便宜トナスノ情狀ナシトセズ故ニ流通工幾分ノ蹇澁ヲ免レスト雖モ壹圓ヲ以テ壹弗ニ通用スルヲ得タリト云依テ海外ノ形勢ト我カ開港場ノ實況トヲ彼此參考スルニ壹圓銀ヲ改鑄シテ秤量ヲ増加スルモ其價格ヲシテ墨銀ノ上ニ在ラシハルヲ得ザルハ近今ノ勢風土旧慣ノ然ラシハル所ニシテ行政ノ権力ト雖モ亦之ヲ奈何トモ<sup>六</sup>ス能ハス此ハ如キハ特ニ增量改鑄ノ舉ナキモ旧來ノ壹圓銀シテ其文字ハ明カニ亞細亞各國



人民ノ識認ヲ得ルヲ以テ墨銀ヨリ甚シキ下位ニ在ラハ  
ルハ既ニ陳述スル所ノ如シ是ニ由テ之ヲ按スルニ壹圓  
銀ヲ改鑄スルカ爲メ每圓四ハノ増加即チ每千圓ニ就キ  
九圓六拾貳錢余ノ利益ヲ政府ニ於テハ之ヲ失ヒ國民ニ  
於テハ別ニ之カ利益ヲ得ルト云フニ非ス此レ何人ノ得  
益ニ屬スルヤ若シ質問スルモノアラフニ之ヲ説明スル  
ニ苦シムナリ請フ者慮アリ以テ舊來ノ壹圓銀鑄造ノ舉  
ヲ回復アラントヲ

### 補助銀貨ノ事

補助銀貨ハ五拾錢貳拾錢拾錢五錢ノ四種已ニ鑄造發行  
セラレタリ而シテ該貨幣ノ流通ニ於テ人民大ニ其便宜  
ヲ得タルハ論ナシト雖モ茲ニ一種ノ補助貨ノ欠乏ヲ訴  
フルモノナキニ非ス何ヲカ一種ノ欠乏アリト云フマ即

チ貳拾五錢ノ貨幣是レナリ蓋シ其概要ヲ舉シニ舊來一  
般ニ慣用シ來ル壹分銀ナルモノハ民間一般ノ至便トナ  
ス所ニシテ使用ノ際該數ニ關係スルモノ甚タ多端ナリ  
今手近ナルモノニ就テ其概畧ヲ舉レハ官廳ニ於テ功勞  
及ヒ奇特者等ハ一時下賜セララル、モ多クハ貳拾五錢ヲ  
常トス其他各職工ノ賃銀力役者ノ日雇金及ヒ彼等カ吉  
凶贈答ニ用フル所ノ包金又中等已上ノ家ニ於テハ僕婢  
并ニ出入人等ハノ諸投典金或ハ小買物等壹分ノ金高ヲ  
以テスルモノモ亦多クシテ旧來慣用スル所ノ壹分銀壹  
分札ノ便宜ナルハ實ニ官民上下一般ノ實況ニ於テ欠ク  
可ラサル要貨タリ然リ而シテ今日之ニ換用スルニ貳拾  
錢ヲ以テセンカ其不足ヲ奈何セン依テ五錢銀ヲ附セン  
カ其流通僅少ニシテ容易ニ之ヲ得ス假使ヒ容易ニ之ヲ



得ルモ其形状輕微ニ過キ（五錢銀ノ事ハ）之ヲ懷中シ又ハ  
之ヲ紙包スルモ糊貼セサレハ其散失ヲ免カレス乃チ貳  
拾錢ニ加フルニ拾錢ヲ以テセハ五錢ノ過剩ヲ生ス又小買  
物及ヒ日雇金等ニ於テ時々其釣リ錢ヲ取り或ハ貳拾錢  
ニ五錢ノ銅貨ヲ加ス之ヲ授受スルカ如キ其不便勝テ數  
フハカラサルナリ以上論スル所ハ事ノ甚々瑣末ニ涉リ  
固ヨリ齒牙ニ掛クルニ足ラサルカ如シト雖モ各新聞紙  
上ニ就テ民間下等社會ノ景況ヲ想像セハ現ニ壹圓以上  
ノ貨紙幣ハ容易ニ手ニ觸レサルモノ許多ナリト記者カ  
論辨スルヲ見ル日本全國ハ大都府ニシテ尚ホ且然リ況  
ンマ邊陲ノ各小都邑ニ於テヲマ故ニ生カ鄙見ニ於テハ  
別ニ貳拾五錢ノ補助銀貨ヲ新鑄發行セラレントテ企望  
ス抑モ此ノ二五即チ四分ノ一ナル數ハ統計上ニ於テモ

甚タ便宜ニシテ歐米各國ニ於テモ此ノ四分ノ數即チ原  
語「クォーレル」ノ數ハ一般ノ用路甚タ廣シ米合衆國ノ如キ  
ハ其本位金貨ニ於テ「イ、クル」即チ拾弗半「イ、クル」即チ五  
弗、四半「イ、クル」即チ二弗五拾錢ノ金貨アリ又補助銀貨ニ  
於テモ五拾錢即チ半弗、貳拾五錢即チ四分一弗ノ種類アリ  
依テ四分一數ノ一般ニ便宜必用ナルヲ知ルニ足レリ  
況ンマ我國古來知ラス、壹分銀ナル貨幣ノ慣用アル  
ニ於テヲマ是ニ據テ之ヲ考フルニ將來暫ク貳拾錢貨  
ノ鑄造ヲ停メ之ニ換フルニ貳拾五錢貨ヲ大ニ鑄造發行  
セラル、時々民間流通ノ便用勝テ言フハカラサルモノ  
アリテ請フ省慮アリ以テ旧來慣用シ來ル所ノ壹分銀ナ  
ル數位ノ有用ヲ回復アラントテ  
補助銀貨ノ内五錢ノ一種ハ民間ノ必用ナルヲ實ニ多ク



シテ人民需用スル所ノ負數ハ貳拾錢又ハ前段論述セル  
貳拾五錢ノ比ニアラス依テ大ニ五錢貨ヲ鑄造發行セハ  
人民ノ便宜ナル鮮サナラサルヘシ然レモ該貨多少ノ日  
ニ於テハ其發行ノ多キヲ望ミ已ニ之ヲ發行スルノ多キ  
ヤ又其不便ヲ鳴ラズモノアラン是レ人欲ノ常ニシテ固  
ヨリ恠ミ且咎ムルニ足ラス何ヲカ不便ト云フヤ即チ其  
形状ノ輕微ニシテ散失シ易キナリ  
之ヲ袖ニシ之ヲ懐ニスルニ當テ囊底ニ匿没シ或ハ此少  
ノ空隙アレハ直チニ漏出スルノ恐アリ以テ人々之ヲ便  
トセス（通價ハ必用ナレトモ）依テ按スルニ米合衆國ニ於テハ八百  
位ノ補助銀貨中拾「セント」五「セント」ノ小貨アリト雖モ五  
「セント」ニ至テハ其形状輕微ニシテ流通ニ便ナラサル故  
カ別ニ「ニツケル」ナル金屬ヲ以テ五「セント」ノ小貨幣ヲ鑄造

發行セリ其形体八百位ノ拾「セント」銀貨ニ同シクシテ稍  
ニ厚シ民間大ニ之ヲ便トシ以テ各聯邦中ニ流通セリ今  
日本國ニ於テ該金屬ヲ開採スル鑛山ナキニ由リ之ニ倣  
フヲ得依テ五百位又ハ六百位ノ品位ニシテ其形体拾錢  
銀貨ニ彷彿タル五錢貨ヲ鑄造發行セ（此）ハ人民ニ於テ  
ハ甚タ其便宜ヲ受ケ政府ニ於テハ幾多ノ利益ナシトセ  
ス且明カニ其品位ヲ彫鑄セハ假令ニ海外ニ輸出スルモ  
他ノ補助銀貨ヲ妨碍スルナカラルヘシ固ヨリ又其品位  
ノ小貨幣ハ輸出スルノ理アルナカラシ請フ官民上下ノ  
便利ヲ忖度シテ之カ鑄造ニ着手アラントシ  
右ハ目今銀貨流通ノ實況ヲ目撃スルノ際聊カ鄙見ヲ  
吐露シ以テ電覽ヲ汚サントス請フ寛恕ヲ垂レヨ

明治十年十月



